海女の愛ちゃんが湯く！

最終回

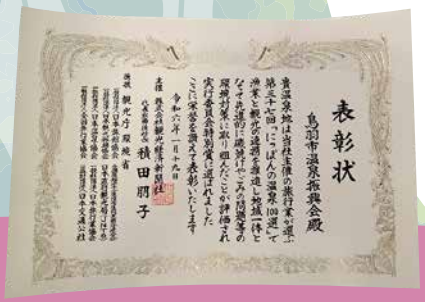
海女の愛ちゃんです。

皆さん春ですね！春と言えば桜の開花情報ですが、鳥羽の海では海藻シーズン真っ只中です。私の食卓には今年も黒ノリ、毛ノリ、アオサ、ワカメなどが登場しています。

さて、既にご存じの方もおられると思いますが、嬉しいニュースが届きましたのでお知らせします。

ナント!! 観光経済新聞社が主催する「第 37 回にっぽんの温泉 100 選」の審査会で、鳥羽市温泉振興会が「実行委員会特別賞」に選ばれました。この賞は、地域活性化に熱心な温泉地や宿泊施設などを顕彰するもので、鳥羽市温泉振興会は、「漁業と観光の連携を推進し、地域一体となって先進的に磯焼けやごみの問題等の環境対策に取り組んだこと」が評価されたそうです。

本年1月 19 日に、東京の浅草ビューホテルで開催された「人気温泉旅館ホテル 250 選認定授与式」の壇上で表彰された吉川会長も大変喜ばれたとお聞きしました。そして、私たちメルマガメンバーも涙！涙！はオーバーですがとても嬉しかったです。



実行委員会特別賞を受賞した鳥羽市温泉振興会会長の吉川勝也氏

温泉振興会は令和３年に鳥羽温泉郷の魅力づくりを目的として「鳥羽温泉郷 海藻 JAPAN プロジェクト」を立ち上げ、鳥羽市観光協会、鳥羽市観光商工課等の地域の関係者や三重大学、じゃらん等と連携し観光庁の事業支援をいただくなど「海藻を切り口」にした事業を展開してきました。「海女の愛ちゃんが湯く！」は、そのプロジェクトの一つで温泉や海藻、海の環境等を取り上げて振興会会員 49 施設や関係者に配信してきました。私たちのメルマガも少しは役に立てて良かったです。また、コロナ禍の大変な時期に取材対応いただいた宿の関係者や海藻の生産者の皆様、本当にありがとうございました！

これまでの事業を通じて温泉振興会と地元海女との関係性が深まり、本年度の「海女の湯治場、鳥羽温泉郷」づくりの取り組みに発展したとお聞きしました。そして、昨年 11 月には首都圏における PR 展開のために制作された「海女の湯治場３連ポスター」が「日本タイポグラフィ年鑑 2024 審査委員賞」を受賞（表彰式は本年４月東京都港区）し、嬉しいニュースが続きました。ヤッホー!!

Japan Typography
Annual 2024
Judges' Choice

タイポグラフィ受賞関連では、旅行系情報誌「旅の手帖」４月号の「ご当地いま推し！」コーナーでも紹介されています。ありがたいですね～！

報告をもう一つ。鳥羽市観光商工課と連携したメルマガ第３弾の取り組みに関心を持っていただいた環境省中部環境事務所から、「地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業」への参画についてお誘いがあり、本年１月 16 日に「環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング」が市内で開催されるに至りました。

当日は扇芳閣の谷口代表の講演。話題提供として、中村鳥羽市長に続き私から鳥羽温泉郷のお話し。取組紹介では、メルマガ第３弾でご紹介しました鳥羽シーサイドホテル、鳥羽国際ホテル、戸田家、ジ・アースの関係者が登場されました。皆さんのお話を聞きながら、改めて鳥羽の宿泊施設における環境にやさしい取り組みは誇らしいと感じました。

嬉しいニュースをお知らせしたところで、「海女の愛ちゃんが湯く！」のメルマガは今回が最終回になることをお伝えします。令和３年１月からスタートして 27 回を数えました。これまでの間、本当に良きメンバーに恵まれたと思っています。

ここで第３弾のメルマガメンバーからの感想をご紹介します

レポーター
カゾ・ポーリン

私は日本に来てSDGsという言葉を知りました。それは、ヨーロッパでは私が生まれたころからサステナビリティという言葉が浸透していたからです。今回の愛ちゃんとの取材を通して、海女さんが持続可能な漁業を続けていることや鳥羽には自然と社会を大切に想う気持ちに溢れた宿泊施設、そしてそこで働く人々がいることを知りました。

最初にアイデアを思いついたのは 1 人かもしれませんが、周囲の人と目標に向かって行動することは、組織や社会に好循環をもたらすのだと思います。SDGsは日本では環境にやさしい取り組みだと思われがちですが、それと同時に社会をよくするための取り組みでもあります。鳥羽のみなさんにも、「海女の愛ちゃんが湯く！」の企画を通して鳥羽での取り組みを誇りに思ってほしいですし、私たちが一人ひとり取り組むことが、未来を変える可能性があることを知ってほしいと感じています。

令和５年から第３弾のメンバーとして、カゾと一緒に参加させていただきました。取材を通して、市内には海との関わりを大切にする宿泊施設があり、そこで働く従業員の皆さんは、それぞれの立場でできることを考え、真剣にお客様と一緒になって行動していることを知り誇りに思いました。また、私自身も伊勢志摩国立公園という美しい恵まれた自然の中で育ち生活する私たちだからこそできること、伝えられることがたくさんあることを知ることができました。

今後も「鳥羽のお宿はすごい！」ということをどんどん発信していきたいと思っています。持続可能な観光地づくりにはみなさんの協力が欠かせません。鳥羽温泉郷の魅力を伝えるツールとして「海女の愛ちゃんが湯く！」のバックナンバーは、これからも存在し続けると思いますので、読んでいただいた方が、それぞれにできることを考えるきっかけになれば嬉しいです。

イラスト／デザイン
大西絵里奈

サステナブルツーリズム編ではイラストとデザインを担当させていただきました。メルマガを通して感じた、鳥羽のみなさんの「自然を守りたい」という強い想い。学び多き１年でした。SDGsとは決して特別なものではなく、目の前の身近なものを大切にすることの積み重ねだと気づかされました。メルマガは今回で最終回となりますが、まだまだ続く愛ちゃんと鳥羽の物語、これからも応援のほどよろしくお願いします。

このメルマガは温泉振興会の関係施設の他、観光関係者にも送信されています。日本の観光分野を牽引されてこられました立教大学 名誉教授の安島博幸様からも感想をいただきましたのでご紹介します。

『「海女の愛ちゃんが湯く！」を楽しく読ませていただきました。もう３年も経ちましたか。ずっと続くと思っていましたが、今回で最終回とか。定期的に届く海藻や環境に対する取り組みや鳥羽の観光まちづくりの動きを知ることができて楽しみにしておりましたので、寂しくなりますね。鳥羽の先進的な取り組みが、また別の形で発信されることを期待しています。愛ちゃん、長い間お疲れ様でした。』

安島先生、いつも感想をお寄せいただきありがとうございました。また、昨年 10 月末の「温泉まちづくり研究会」では石鏡町にお越しいただき、お目にかかれて嬉しかったです。

レポーター / 写真
大野愛子

鳥羽の温泉宿に Dive!
嬉しい物いっぱい見つけた〜！

３年も続いたメールマガジン「海女の愛ちゃんが湯く！」も、ついに最終回が来てしまいました。本当に不慣れすぎて毎回たくさんの方にご協力頂き、毎回毎回今持っている力を出し切ってやってきました。

１年目はフォトグラファーのキャリアを生かし海藻料理の撮影に力を入れ、２年目は同じ海の生産者としての目線を生かし、海藻の生産者さんの想いを伝え、３年目は鳥羽の海を愛する者として、ホテル、旅館さんの鳥羽の海を守るための取り組みを紹介して来ました。この３年間で、海の状況も悪化して来ています。いろんな方のお話を伺って、海女である私ができる事は何か？といつも自問自答してきましたが、ようやく行動に移せる時が来たかもしれません。やはり最前線の海でアクションを起こすべきではないかと思いました。メールマガジンは終了しますが、新しいことにチャレンジしていきますので、また違う形で皆様にご報告出来ればと思います。

３年間どうもありがとうございました !!

最後まで「海女の愛ちゃんが湯く！」を読んでいただきありがとうございました！

鳥羽温泉郷
TOBA ONSEN-GO